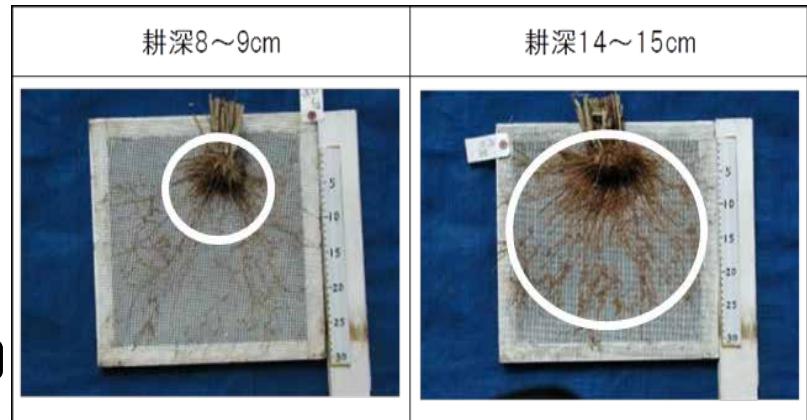


秋起こしのポイント

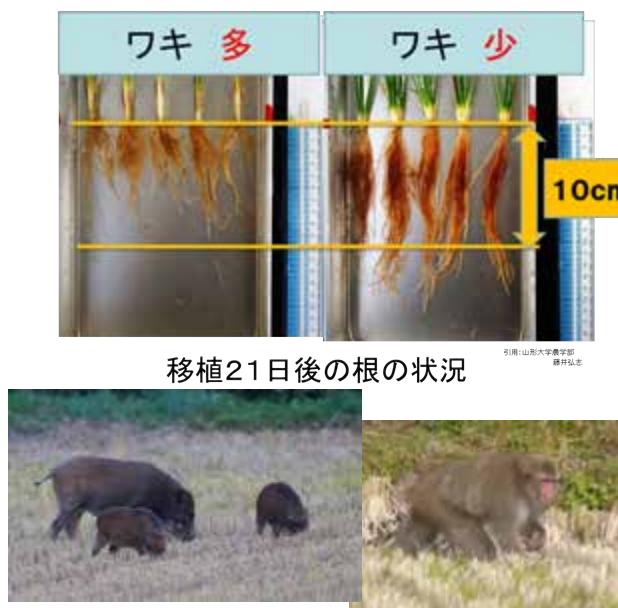
1. 今より5cm深耕しよう

管内の圃場を見渡すと作土深10cm程度の圃場が多くみられます。今より5cm深い作土深15cm程度まで深耕することで根の生育域を広げ、水分や養分を吸収しやすくすることで収穫量が増加します。トラクターの速度に注意して深耕しましょう。

速度(m/秒)	速度(km/時)	耕深(cm)	備考
0.25	0.90	14~16	歩く速さの1/4、15a/時間
0.34	1.22	12~14	歩く速さの1/3、20a/時間
0.50	1.80	10~12	歩く速さの2/3、25a/時間



2. 10月中に実施して稻わらの腐植を促進しよう



3. 土づくり資材の投入

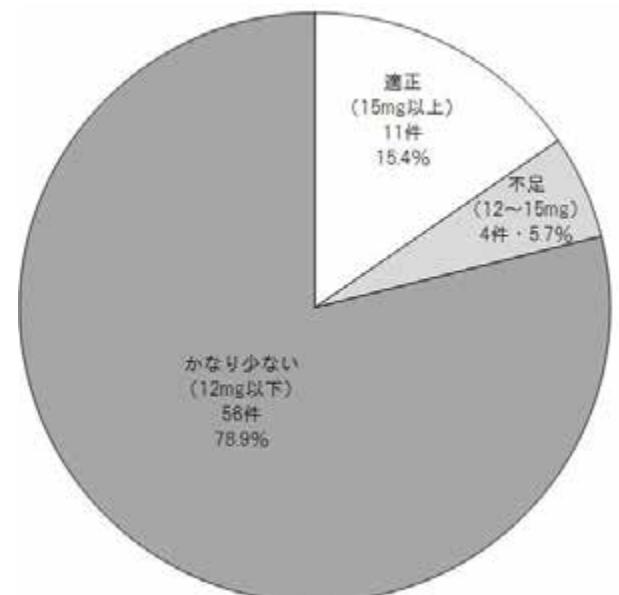
稻はケイ酸植物と言われるくらいケイ酸を吸収します。稻が吸収した分を補給するためにケイ酸質資材を施用し地力UPを図り、登熟後半まで根の活力を維持して、異常気象などに強い稻体を作るための土台作りをしましょう。

○ケイ酸質資材の主な効果

- ① 登熟を向上させ、粒張りや品質を良くする。
- ② 乳白米を軽減する。
- ③ 病害虫に対する抵抗性を強める。
- ④ 倒伏に強くなる



2019年度土壤分析結果(71点)
ケイ酸含有量(mg/100g)



稲刈り後の水田雑草対策について

☆ 地下茎（塊茎）で増える雑草には稲刈取後の除草剤が効果的です ☆



ミズガヤツリ



セリ



オモダカ



クログワイ



【 薬 剤 名 】

- ・ラウンドアップマックスロード 50 倍液
- ・草枯らしMIC 50 倍液
- ・クロレート粒 20kg／反（ケイカルなど土づくり資材との近接散布は避ける）

【 散布時期など 】

- ・刈取後なるべく早めに除草剤を散布し、地上部を枯死させ、地下茎の形成を阻害する。
- ・塊茎の形成時期はかなり幅があり、早いものは9月中に形成が見られる。
- ・散布時期が遅れるほど塊茎の数が多くなるので除草効果が劣る。（9月下旬までが理想）
- ・2年連続で秋散布すると、ほぼ根絶が可能となる。

【 散布上の注意 】

- ・散布前後に降雨があると効果が落ちるので天候をよく見極めて散布すること。
- ・液剤の場合は田面がワラで覆われているときは、雑草が発生してから散布し、茎葉に薬剤をよく付着させる。
- ・散布する際は、圃場周辺の作物の薬害防止に細心の注意を払う。

◆ 特別栽培米生産予定農家の皆様へ ◆

来年、特別栽培米（減農薬・減化学肥料栽培など）を予定されている場合、前作物収穫後にラウンドアップマックスロードを使用すると次年度の栽培期間中に畦畔散布が出来なくなりますので注意してください。（草からしMIC・クロレート粒は使用不可）
土づくり資材の選択については、化学合成窒素を含まない、ケイカルやしきぶホワイト、ようりんを施用するようにしてください。